

審 議 結 果

会 議 名	第3回盛人大学運営委員会
開 催 日 時	令和5年11月17日（金） 14時00分から15時30分
開 催 場 所	川口市立かわぐち市民パートナーステーション会議室1・2
出 席 者	石坂委員長、仲川副委員長 高川委員、相京委員、瀬切委員 堀江課長、大崎係長、坂田主査、宮田主任、石井主事
議 題	1 開会 2 議事 （1）報告事項 ア 令和5年度コース運営について イ 第1回委員会での提案事項について （2）協議事項 ア 令和6年度の講師料及び受講料について イ 新コースの検討について 3 その他 4 閉会
公開／非公開の別	公開
非 公 開 の 理 由	—
傍 聴 人 の 数	0名
会 議 資 料	資料1 令和5年度盛人大学応募結果 資料2 市民公開講座の状況 資料3 盛人大学各年度実施コースの推移

	資料4 令和3年度盛人大学卒業生アンケート結果 資料5 かわぐち市民パートナーステーション登録団体アンケート 資料6 令和4年度盛人大学受講生アンケート結果 資料7 令和6年度の講師料及び受講料について 資料8 新コースの検討について 別添1 令和5年度 募集案内 別添2 第1回委員会での提案事項について
審 議 経 過	別紙のとおり
そ の 他	—

審 議 経 過

第3回委員会

1 開会（14時00分）

- ・ 事務局紹介。
- ・ 委員長挨拶。
- ・ 事務局から配布資料について説明。
- ・ 事務局から出席委員数が委員定数の過半数に達しているため、盛人大学運営委員会設置要綱第6条第2項の規定により本委員会が成立している旨を報告。
- ・ 議長から会議録署名人を選任。
- ・ 事務局から本会議の公開と傍聴について説明。傍聴人なし。

2 議事

（1）報告事項

ア 令和5年度のコース運営について

○委員長

規定により議長を務める。委員の慎重かつ積極的な審議とスムーズな議事進行への協力をお願いする。

2 議事（1）報告事項、ア 令和5年度のコース運営について事務局の説明を求める。

○事務局

2 議事（1）報告事項、ア 令和5年度のコース運営について説明する。

1 ページ 資料1「令和5年度 盛人大学応募結果」をご覧いただきたい。

令和5年度の募集定員は194名であるが、第2回運営委員会で募集定員を上回る応募があった場合、定員を超えて受け入れることは可能かとのご意見を頂戴したことから、盛人大学実行委員会にて、各コースに確認したところ、Aの社会教養コース、Cの国際コース、Eの地域デザインコース、Hの社会起業・ビジネスコースから、括弧内に記載の人数まで受入可能としたうえで、最終的には全コース合計で189名の受講となった。

また、Eの地域デザインコースとIの農業体験コースは定員を満たさなかったため、追加募集を行ったが、定員以下となった。なお、Hの社会起業・ビジネスコースは一次募集で定員を満たしていたが、実行委員からの申出により追加募集を行った。

受講者の平均年齢は65.8歳、最年長が86歳、最年少が49歳であり、コースの概要については、別添資料1、令和5年度募集案内にてご確認ください。

次に、2ページ 資料2「市民公開講座の状況」をご覧いただきたい。なお、資料作成の都合上、10月14日現在のデータである。

市民公開講座は、盛人大学を市民の方に広く周知し、来年度以降に盛人大学に応募する際の参考としていただくために、川口市内在住・在勤の48歳以上の方を対象に、体験講座としてカリキュラムの一部を受講できるものである。

9月13日水曜日より10月以降の公開講座の申込を受付しており、募集定員以上の申込

があった場合は、受講生の人数や会議室定員を鑑み、各コースの実行委員と協議のうえ、臨機応変に受入をしたいと考えている。

次に、3ページ 資料3「盛人大学各年度実施コースの推移」をご覧ください。

この資料は、平成19年度から令和5年度までの実施コースの推移、及び受講者数の一覧である。

盛人大学は、平成18年度に環境をテーマとした講座を実施したことが始めであり、その後、表に記載のとおり、順次、コースを増加している。今年度は、先ほど説明したとおり、定員以上の受入をしているコースもあり、コロナ禍以前に近い状態で講義を行っている。令和5年5月8日より、新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類になったため、来年度以降はよりコロナ禍以前の状態に即した運営を行っていきたいと考えている。

令和5年度のコース運営について、報告は以上である。

○委員長

今の説明に対して、質問や意見はあるか。

○委員

募集についてはどのように広報しているか。

○事務局

募集案内を作成、配布しており、市ホームページでも周知している。

○委員

募集案内はどこに配布しているのか。

○事務局

かわぐち市民パートナーステーションの他、本庁舎、川口駅前行政センター、各支所、各公民館、各図書館で配布している。

○委員

いい事業なので、もっと多くの申込があるように広報して欲しい。

○委員長

市民公開講座で申込がない講座もあるが、どのように広報しているのか。

○事務局

広報かわぐち及び市ホームページで広報している。

○委員長

市民公開講座についても、申込が増えるよう周知をお願いします。

○委員

市民公開講座も50歳以上が対象か。

○事務局

市内在住または在勤の48歳以上が対象であり、通常の募集は市内在住または在勤の50歳以上が対象である。

○委員

広報かわぐちはどれくらい配布されているのか。

○事務局

町会を通じて各世帯に配布されており、おおよそ18万世帯から20万世帯配布されていると考えている。

○委員

以前に比べ、盛人大学の募集の掲載面が小さくなったので、レイアウトを工夫していただけるとありがたい。

また、実行委員の中には町会の役員をされているかたもいるため、町会に働きかける等周知を工夫したい。

○委員

資料1の一次募集後の人数は実際の応募者なのか、受講が決定した人数のどちらなのか。
来年度以降定員を戻す方向であるが、実際に受講者は集まるのかどうかを確認したい。

○事務局

一次募集後の人数は応募者総数ではなく、受講が決定した人数である。コースによっては募集定員以上の申込があり、抽選を行っている。募集定員については会議室の定員と各コース実行委員のご意見をお聞きしたうえで決定したが、新型コロナウイルスの制限もなくなっており、募集は増えると考えている。

○委員

応募者総数も分かるとうい。

○委員長

会議室の定員により抽選を行うコースもあるとのことで、応募者数を見ながら、より多くのかたが受講できるように工夫していただきたい。

○委員

令和3年度より、かわぐち市民パートナーステーションで月曜日に事業を行っているが、50代、60代の働いているかたがなかなか増えない。国際コースは、来年度は日曜日の講座を増やしていただいたり、開始時間を17時30分にさせていただいたりと少しでも現役世代も応募できるように工夫した。その他にも、魅力的な講座を増やす等、コース毎での工夫も必要である。

○委員長

いまご意見をいただいたとおり、応募状況を踏まえて工夫することは重要である。

他はいかがか。

○委員

特になし。

イ 第1回委員会での提案事項について

○委員長

(1) 報告事項、 イ 第1回委員会での提案事項について事務局の説明を求める。

○事務局

(1) 報告事項、 イ 第1回委員会での提案事項について説明する。

別添資料2 「第1回委員会での提案事項について」をご覧ください。

第1回運営委員会で委員の皆様より、今後の盛人大学事業を運営していく上で継続して審議すべきこと、としてご提案いただいたご意見について、進捗状況を報告させていただく。

運営委員会からの提案事項の①卒業生アンケートの改善について、4ページ 資料4「令和3年度盛人大学卒業生アンケート結果」をご覧ください。

卒業生アンケートは卒業後の社会貢献活動の有無を把握するために実施しているが、卒業後の受講生が各コースの内容に沿った活動をしているかについても把握すべきとのことご意見を頂戴したことから、実行委員会で協議のうえ設問を改善し、令和3年度の卒業生に、令和5年1月～2月にかけてアンケートを実施した。卒業生数156名のうち108名が回答し、回答率は69.2%であった。

設問1「現在社会貢献活動を行っているか」については、①行っているが53.7%、②行う予定が13.9%であり、③行う予定なしが16.7%、④過去に行っていたが、現在は行っていないが14.8%であった。

設問2「いつから行っているか」については、①入学前が63.8%と6割以上の方が入学前から活動していると回答し、②在学中と③卒業後を合わせて24.2%の方が社会貢献活動につながっている。

どのような活動を行っているか、どのような団体に加入しているかについては設問3と設問4をご覧ください。

新たに設けた、設問9「受講したコースに関する活動をしているか」に対する回答は、①「はい」が47.2%と、半数近くのかたがコースに関する活動をしていると回答している。

また、第1回委員会での提案事項の2点目、「卒業後の社会貢献活動につなぐコーディネーターの設置」について、設問6「社会貢献活動を行う上で支障となるもの」に対する回答は③「身体的、もしくは家庭の事情」が26.5%、④「活動する時間がない」が29.4%であり、個人の事情が多くを占める一方、①「活動方法が分からない」が29.4%、②「どこに、もしくは誰に相談していいか分からない」17.6%など、活動の始め方が分からないといった回答も多くあった。

次に、設問7「盛人大学卒業後に社会貢献活動をするにあたり、盛人大学で行った方がよいサポート」に対する回答は、①「ボランティア団体の紹介」が58.8%、②「ボランティア団体とのマッチング」が52.9%と多くを占めており、卒業後の社会貢献活動につなぐコーディネーターの必要性が見えてきたところである。

この他に、卒業生の受け皿となるかわぐち市民パートナーステーション登録団体へもアンケートを実施し、登録団体の意向も確認している。6ページ 資料5「かわぐち市民パートナーステーション登録団体アンケート」をご覧ください。

設問1「盛人大学を通じて、会員募集や活動内容のPRを行いたいですか？」に対して、50%が「はい」と回答している。

設問2「かわぐち市民パートナーステーションで活動内容を紹介するイベントを開催した場合、参加したいですか？」に対しては62%が「はい」と回答している。

設問3「盛人大学を受講して設立した団体ですか？」に対して12団体が「はい」と回答している。アンケート未回答の団体で、盛人大学を受講して設立している団体もあることから、12団体以上が盛人大学を受講し、設立されている。

次に、運営委員会からの提案事項の3点目、新たなコースの検討について、現状のコース内容にとどまらず、情勢に合わせたコースの検討が必要である、とのご意見を頂戴した。後ほどの協議事項にてご意見を頂戴したい。

最後に、提案事項の④受講料の見直しについて、令和4年度の受講生にアンケートを実施

し、1年間受講してみてもの感想等と併せて、受講料についても意見を聴取した。7ページ 資料6「令和4年度盛人大学受講生アンケート結果」をご覧いただきたい。

設問4「盛人大学を1年間受講したうえで、受講料は適正価格でしたか」に対し、89.8%が適正と回答しており、設問5「受講料について、いくらまでなら受講したいと思いませんか」に対し、5,000円までという回答が41.5%と一番多く、6,000円以上の回答も一定数いることがわかった。

受講生へのアンケートの他、他自治体の類似事業等の比較を行うべく、6月9日(金)に、令和5年度第1回県市町村高齢者大学連携会議に参加した際に、他自治体に受講料の確認を行ったが、実施形態や実施期間が異なり、比較には適さなかった。

第1回委員会での提案事項について、報告は以上である

○委員長

今の説明に対して、質問や意見はあるか。

○委員

資料5「かわぐち市民パートナーステーション登録団体アンケート」の回答をしていない団体は活動をしていないということか。

○事務局

アンケートの回答率が32.9%と低いですが、毎年、活動報告の提出を全登録団体に求めており、大多数の登録団体が活動していることを確認している。

○委員

回答率が少ない結果は残念である。

卒業後の社会貢献活動に対し、実行委員の意識も低い部分があり、前回委員会以降、私が実行委員を務める国際コースでは、市内の日本語教室を案内するなど卒業後の社会貢献活動にも繋がるように取組んでいる。

○委員長

他はいかがか。

○委員

私自身も団体活動を行っているが、様々なアンケートが送られてきている。活発に活動している団体こそ時間がないはずであるから、個人的にはアンケートの回答率は低くないように感じる。

○委員

回答期間は短い、設問が少ないため団体の負担は少ないはずである。

○委員

アンケートの設問は資料記載の設問のみか。

○事務局

議題に関係する設問を抜粋している。

○委員長

必要以上に設問が多いアンケートは回答することがかなりの負担となるため、工夫が必要である。アンケート以外にも意見を聴取する方法があるため検討していただきたい。

他はいかがか。

○委員

特になし。

(2) 協議事項

ア 令和6年度の講師料及び受講料について

○委員長

(2) 協議事項 ア 令和6年度の講師料及び受講料について事務局の説明を求める。

○事務局

(2) 協議事項、 ア 令和6年度の講師料および受講料について説明する。

9 ページ 資料7「令和6年度の講師料及び受講料について」をご覧ください。

盛人大学各コース講師料及び受講料等については、平成27年9月30日に開催した盛人大学運営委員会でご審議頂き、設定に関して基本的な考え方を決定していただいた。

決定内容について、1「基本的な考え」(1)をご覧ください。ア 各コース講師料について、年間20万円を上限とすること、ただし、農業体験コースは単位数を鑑み、40万円を上限とする。なお、講師料の年間上限額を決めるにあたり、講師料は1単位、1時間につき1万円が上限として積算している。

次に、受講料については、イとウにあるように、3段階、下限は4,500円とすること、また、エのとおり、全コースの講師料合算額の8割程度を受講料収入で賄うように設定することとしている。ただし、オのとおり大幅な値上げにならないよう配慮すること、以上の5項目を基準としている。

次に、2「令和6年度講師料及び受講料について」をご覧ください。令和6年度(案)について、講師謝礼金については基本的な考えのアに基づいた金額、定員上限については会議室の定員と各コースの実行委員から意見を踏まえた人数、受講料については基本的な考えのイ・ウに基づいた金額により作成している。基本的な考えのエと比べると、約10%程度低くなるが、市職員が講義を行うなど、講師料がかからない講義もあることから、より実態に即した積算となるよう作成したものが右上の「参考1」である。令和6年度の定員上限数を入れ、令和5年度の講師料の実績で積算すると、77.5%の割合となり、受講料収入が講師料支出の80%程度となる。

このことから、令和6年度の講師料については、令和6年度(案)としているとおり、講師謝礼金年額に記載の各コースの上限額、農業体験コースは40万円、その他のコースは20万円としてよいか、また、受講料については「農業体験コース」が8,000円、「社会起業・ビジネスコース」が5,500円、その他のコースが4,500円の受講料としてよいかお諮りする。なお、受講料は現在と変更はない。

説明は以上である。

○委員長

今の説明に対して、質問や意見はあるか。

○委員

令和6年度（案）は講師謝礼金年額が20万円であるが、令和5年度の講師謝礼金年額のうち、地域デザインコースは11万円、ボランティア入門コースは8万円であり、20万円と比べると大きな差がある。講義内容は変わらずに、20万円とするものなのか。

○事務局

職員が講義を行うため講師料がかからない講義もあり、令和5年度の実際にお支払した講師料を参考に記載している。令和6年度（案）は講師料の上限額を記載したものである。

○委員長

他はいかがか。

○委員

特になし。

○委員長

受講料について、令和4年度盛人大学受講生アンケートの回答を見ると、ほとんどのかたが受講料は適正であると回答している。

○委員

前回の委員会にて、埼玉未来大学と比べると受講料が非常に安いと私が発言した。安いことは受講生にとっていいことではあるが、平成27年度の基本的な考え方から変更がないということで、受講料や講師料の見直しを検討してもよいのかと思っている。

○委員

近年の物価の上昇を踏まえると、講師料が1時間あたり1万円という盛人大学開設当初からの取決めは、次年度以降見直す段階にあると思う。

受講料について、受講生の人数が増えるのであれば収入も増えるため現状維持でもよいと思うが、会議室の定員にも限界があるため、本来の適正人数ではない場合もあるかと思う。受講生の総人数や各コースの人数、予算等踏まえて検討していただきたい。

川口市以外の類似事業と比べれば、盛人大学は破格の受講料であるため、値上げありきではないが、様々な角度から価格改定の検討をすべきである。値上げする理由、または値上げしない理由を整理していただき、令和6年度には間に合わずとも、令和7年度以降に反映できるよう議論の機会を設けていただきたい。

○委員長

他はいかがか。

○委員

聞き方を工夫していただいたうえで継続的にアンケートは実施すべきである。

○委員

類似事業の受講料を参考にしてもよいと思う。

○委員長

ご意見をいただいたとおり、物価等の上昇があるものの、受講料や講師料は据え置かれており、受講生にとってはよいが、類似事業と比較すると破格の受講料であるのご意見をいただいた。

継続して審議すべきことであるが、事務局として令和6年度からの受講料改定についてはいかがか。

○事務局

募集案内を現在作成している状況のため、令和7年度以降からの改定が望ましい。また、アンケート結果を用いての検討のみならず、類似事業の比較等も必要であるため、継続してご審議いただきたい。

○委員長

他はいかがか。

○委員

特になし。

○委員長

事務局から説明があったが、令和6年度については現状どおりでよいか。

○委員

スケジュールも含め、実現可能な範囲で受講料の改定を検討していただければよいと思う。令和6年度は据え置きでよいが、貴重な税金が使用されている事業であるため、受益者負担も考慮し、次年度以降議論を重ねたい。アンケート結果によると受講料5,000円は適正であることから、令和7年度以降に受講料が改定できる場合、受講料4,500円のコースを5,000円に改定するなど検討していただきたい。

○委員長

他はいかがか。

○委員

特になし。

○委員長

川口市の市民大学の受講料と比較しているか。

○事務局

講義日数が大きく違うため、比較に適さない。

○委員

現在会場費はかかっていないため、類似事業と比較する場合はその点も踏まえて比較していただきたい。

○委員長

受益者負担を考慮するという意見があったが、税金を使用する川口市の事業で、受益者負

担の大小に乖離があることは望ましくないため、よく比較していただき、必ずしも値上げをする必要がある訳ではないということではあったが、引き続き改定について検討していきたい。

令和6年度講師料及び受講料について、(案)のとおりとしてよいか。

○委員

異議なし。

○委員長

一度の委員会で決定することは難しいので、委員会の回数や時期も検討していただき、引き続き講師料及び受講料の改定について審議を継続していきたい。

イ 新コースの検討について

○委員長

(2) 協議事項、 イ 新コースの検討について事務局の説明を求める。

○事務局

(2) 協議事項、 イ 新コースの検討について説明する。

10ページ 資料8「新コースの検討について」をご覧ください。

第1回委員会にて、「近年コースが固定化されているが、盛人大学開校から10年以上経過しており、社会情勢も変化していることから、運営委員会にて今後検討すべきだ」というご意見を頂戴した。

盛人大学の開講の目的は、50歳以上のかたがたの交流と地域参加の機会を提供し、卒業後は地域で活躍する人材を育成することであり、コース運営主体の【参考】に記載のとおり、各コースのスタッフ及び協力団体に、コースの運営を担っていただいている。

新コースを開講する場合には、目的に沿ったコースであることと、運営を担っていただけるかたを発掘、確保する必要がある。

以上の点を踏まえて、新コースについてのご意見をいただきたい。

説明は以上である。

○委員長

今の説明に対して、質問や意見はあるか。

○委員

新コースの検討にあたり、副委員長は盛人大学開校に携わっていらっしゃるため、コースが増えていった経緯をお聞きしたい。

○副委員長

かつて、50歳以上を対象とした盛人式という式典を行い、私は実行委員長であった。100人程度の実行委員が集まっており、ボランティアとしてこれだけの人数が集まったのだから今後も何か継続したいという声が多く、話し合った結果盛人大学事業を開始した。

資料に記載のとおり、最初のテーマは環境を取扱ったが、自身らが環境について勉強し、講師を務めた。当時のボランティアサポートステーションの職員にもご協力いただき、平成20年度は社会教養コースを、平成22年度には心理カウンセリング入門と農業体験コースも開設した。その後はボランティア同士で、現在という実行委員同士で意見を交わしながら、増設していった。新コース開設について、このような委員会で決定したことはなかったと記憶しているので、革新的だと感じている。

私自身もそうだが、AI等新しいことは、言葉で知っていることはあるが知識をつける機会がなかなかないので、盛人世代にとっては知る機会があるだけでもいいことだと感じる。

また、私個人の意見であるが、コースを新設し、状況をみて入れ替えることもいいと思う。我々盛人世代がテーマを決めることもよいが、若い世代が盛人世代に知ってもらうべきと考えるテーマにすることもよいのではないかと。

○委員長

盛人大学開校に係る貴重なお話しをお聞きすることができた。

先ほどのお話しの中であった、若い世代にも関わるテーマは重要だと感じる。参考には

あるが、市民生活部は町会に関係した業務があり、若い世代の加入率の低さが問題であり、議会でもＩＴ化、ＤＸ化が度々質問にあがっており、市民生活部が主導となり、町会のホームページ開設講座を行っている。しかしながら、町会は若い世代だけではないため集客が難しく、若い世代も含め集客が期待できる講座を検討するにあたって、予算の関係上、外部講師の検討が難しい。

かわぐち市民パートナーステーションには様々な団体が登録しており、様々な分野に長けた団体、ＮＰＯ法人等であれば、比較的安価で講師を依頼することができると推察されるため、副委員長のご意見を踏まえながら検討すれば方向性が見えるのではないかと。

○委員

私が代表を務めるＮＰＯ法人では、スマートフォンの使い方講座を行ったが、すぐに定員が埋まった。５０代の現役世代向けにテーマを決めるなら、講師料の問題もあると思うが、例えば様々なハラスメント防止に関わる講座など、仕事にまつわるテーマや興味のあるテーマ設定が必要ではないかと。

○委員

新コースを設立する場合、９コースから１０コースにするのか。それとも今あるコースを１つ廃止して新コースを設立するのか。

○事務局

受講者が確保でき、収入と支出のバランスが取れば１０コースにすることは可能だと考えている。

○委員

会議室の空き状況についても、第２月曜日、第４月曜日の１７時以降であれば問題ない。

青少年ボランティア育成事業と絡めることは可能なのか。

○委員長

おっしゃるとおり、青少年のボランティアと盛人大学が結びつくと効果的かもしれない。これについて、事務局としてはいかがか。

○事務局

青少年のボランティアが農業体験コースに参加する機会は設けているが、新コース設立にあたっての検討はしていない。小学生から概ね25歳までが対象となる青少年ボランティア育成事業を絡める場合、よく検討する必要がある。

○委員

青少年のボランティアに新コースのテーマを聞くことはいかがか。

○委員長

青少年のボランティアが直接参加することは難しいと思うが、新コースの意見を聞くことはできるかもしれない。

○委員

最初に行った環境を再度テーマにすることやSDGsをテーマにし、市職員のかたに講師を依頼して行うこともできるのではないか。

○委員長

魅力的な講座を設立したとしても、月曜日に行っているため集客に工夫が必要である。

○委員

かわぐち市民パートナーステーションが休所日のため月曜日に行っているのか。

○事務局

そのとおりである。

○委員

一部講座は日曜日にも行っているとのことであるが、もう少し増やせばいいと思う。

○委員長

会場を模索し、日曜日に行う講座を増やす検討も必要である。

○委員

月曜日は何時まで会場が使用可能か。

○委員

20時30分に退所する必要がある、来年度国際コースは事務局に依頼し17時30分から行う。

○委員長

本日は色々ご意見を頂戴した。会場や曜日、講師、テーマ等、事務局（案）を検討していただき、継続して審議していきたい。

何かご意見はあるか。

○委員

老後の関心が高いため、それに関するテーマがよいと思う。

曜日について、現役世代は土曜日日曜日でなければ参加が難しいが、高齢者のかたで土曜日日曜日は参加できない場合もある。他の事業も参考に検討していただきたい。

○委員長

他はいかがか。

○委員

私は盛人 Happy Life フェアという、人生を最後まで楽しむための高齢者向けのイベントを行っているが、高齢者向けのテーマであればそういったものもよいのではないか。

また、過去には著名人を招いて特別講演を行ったことがある。それは私の知人であるが、盛人大学関係者の知人にも著名なかたはいるはずであるから、紹介してもらうことや、関係者にどのような講座であれば受講したいか調査することがよいと感じる。

○委員長

他はいかがか。

○委員

特になし。

○委員長

それでは新コースの設立については、継続して審議することとする。

(3) その他

○委員長

事務局から何かあるか。

○事務局

特になし。

○委員長

その他に質問や意見はあるか。

○委員

特になし。

○委員長

これで議長の任を降り、進行を事務局に戻す。

3 閉会（15時30分）

○事務局

これをもって、第3回盛人大学運営委員会を終了する。

会議の内容については、以上のとおりです。

令和5年12月13日

盛人大学運営委員会委員長(石坂委員長署名).....

盛人大学運営委員会委員(仲川副委員長署名).....